

畜産いしかわ

LIVESTOCK INDUSTRY OF ISHIKAWA

90号 発行人：石川県 令和8年9月30日発行

農林水産部

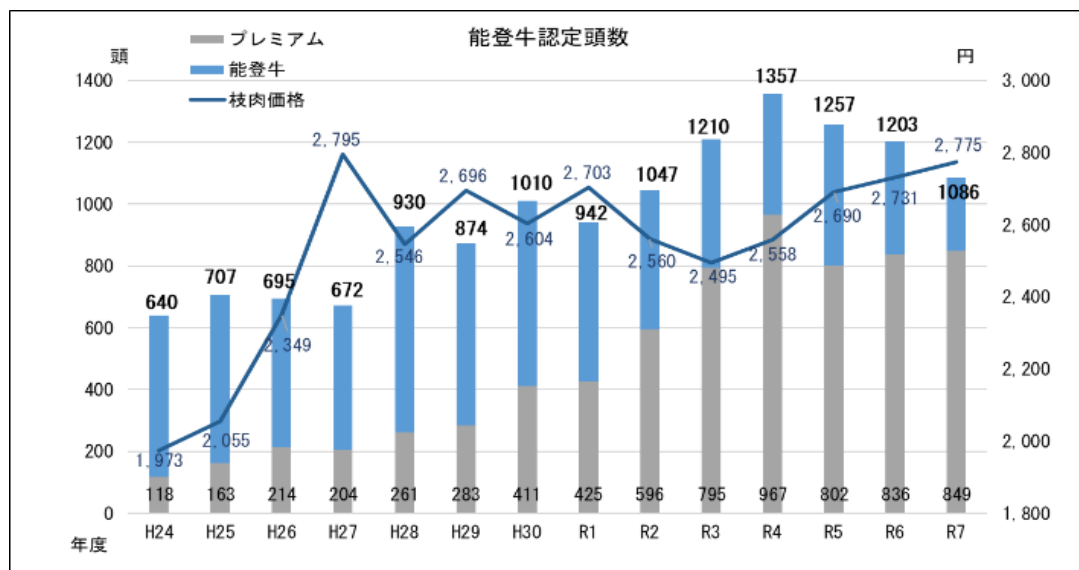
畜産振興・防疫対策課

〇能登牛の魅力発信とこれからのイベントのお知らせ

能登牛を応援してくださる皆さまへ

石川県を代表するブランド牛である能登牛は、生産者のたゆまぬ努力により、高品質な牛肉として多くの皆さまに親しまれています。

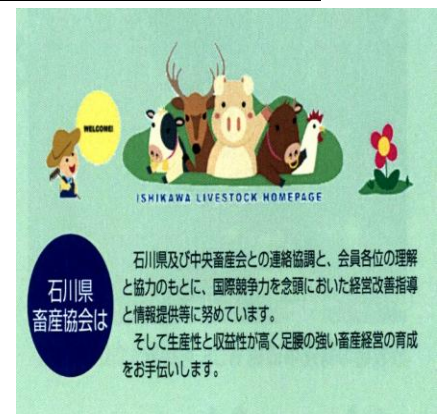
令和7年度の能登牛認定頭数は1,086頭となりました。また、その中でも特に高い品質基準を満たした「能登牛プレミアム」は849頭が認定され、前年度を上回る実績となりました。生産者の皆さまによる飼養管理技術の向上により、高品質な能登牛の生産が続けられています。



目次

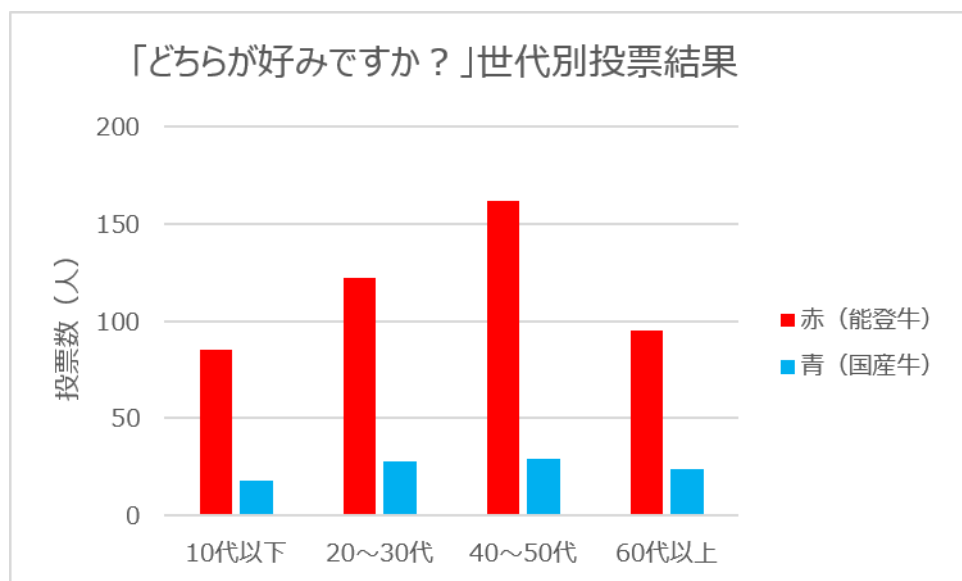
CONTENTS

- ◆能登牛の魅力発信とこれからのイベントのお知らせ
・・・1
- ◆本県における公務員獣医師職員確保に向けた取り組みについて
・・・5
- ◆豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針の改正について
・・・6
- ◆食肉評価の最近の動向について
・・・9



近年は、飼料価格の高騰や能登半島地震など、生産現場を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。しかし、生産者の皆さまの復興への強い思いと努力によって、能登牛の生産は着実に継続されています。能登牛銘柄推進協議会では、能登牛のおいしさや生産者の思いをより多くの方に知っていただくため、これまで県内外でさまざまなPR活動を実施してきました。

県内では、「秋の百万石の極みフェア」や「第46回石川の農林漁業まつり」、「のともっと MARCHE」などで試食やPRを行いました。特に「のともっと MARCHE」では、能登牛と国産牛の食べ比べ企画を実施し、全ての世代で能登牛を支持する割合が高い結果となり、改めて、能登牛のおいしさを多くの方に実感していただく機会となりました。



また、令和7年度「能登牛で元気に！ごちそう宿泊キャンペーン」を開催し、県内の宿泊施設や能登牛認定店と連携した取組を実施しました。アンケートでは、「やわらかい」「旨味がある」といった評価が多く寄せられ、回答者全員から「他の人にも勧めたい」との回答をいただきました。県外からの利用者も多く、能登牛を目的とした観光誘客にもつながっています。



さらに、首都圏での試食イベントや料理人向けの産地見学ツアーを実施したほか、シンガポールや香港への輸出にも取り組みました。国内外で能登牛の魅力を発信することで、ブランド価値の向上と販路拡大を進めています。

このように、令和7年度は県内外において多様なPR活動を展開し、多くの消費者の皆さまに能登牛の魅力をお伝えすることができました。令和8年度も引き続き、能登牛の認知度向上と消費拡大を図るため、さまざまな事業やイベントを実施していますので、その一部をご紹介します。

能登牛を楽しめるイベントを開催します！

「能登牛で元気に！宿泊キャンペーン」実施中

現在、令和8年度「能登牛で元気に！宿泊キャンペーン」を実施しています。

期間中、対象プランを利用して宿泊すると、県内の宿泊施設や能登牛認定店で能登牛をお楽しみいただけます。また、アンケートにご回答いただいた方には、ペットボトル飲料やお菓子などのプレゼントもご用意しています。

実施期間は令和8年7月23日から令和9年2月21日宿泊分までです。生産者の皆さまにおかれましても、ご家族やご親戚、ご友人など県外のお知り合いに本キャンペーンをご紹介いただき、能登牛の魅力発信にご協力いただければ幸いです。

※予算が上限に達した場合など、キャンペーン実施期間中であっても終了する場合があります。

※詳しくは、右側のQRコード、または「[能登牛.net](https://nodenaka.net)」をご覧ください。



能登牛.net

「能登牛と秋の味覚市 in 能登町」

令和8年10月17日（土）には、能登町の柳田植物公園で「能登牛と秋の味覚市」が開催されます。能登牛銘柄推進協議会も共催し、能登牛の試食や県産畜産物の配布などを予定しています。

能登半島地震以降、多くの方々から能登地域へ温かいご支援をいただいています。本イベントは、そんな皆さまへの感謝の気持ちを込めて開催するものです。能登の豊かな食の魅力を体感できるイベントとなっていますので、ぜひご来場ください。

開催日時；令和8年10月17日（土）10：00～14：00

開催場所：柳田植物公園（石川県鳳珠郡能登町字上町口1-1）

※詳しくは、右側QRコード、または「[能登町観光ガイド](#)」、「[能登牛.net](https://nodenaka.net)」をご覧ください。



▲詳細はこちら
(随時更新)

能登町観光ガイド

7年ぶりに復活！

「能登牛祭り（仮称）」開催予定

令和9年1月30日（土）には、金沢駅もてなしドーム地下広場において、「能登牛祭り（仮称）」の開催を予定しています。これは、令和元年度に開催した「能登牛1,000頭出荷達成記念イベント」以来、約7年ぶりとなる大規模な能登牛PRイベントです。

当日は、能登牛をはじめとした県産畜産物を使った飲食ブースや試食コーナー、精肉販売

などを予定しています。能登牛のおいしさを直接味わっていただける絶好の機会ですので、生産者の皆さまにおかれましても、ご家族や地域の方々とともに、ぜひご参加いただければ幸いです

能登牛銘柄推進協議会では、これからも生産者や関係者の皆さまと連携しながら、能登牛の魅力を発信していきます。

能登牛.net 掲載先↓

<https://www.notoushi.net/news>

能登町観光ガイド掲載先↓

<https://notocho.jp/event/1478/>

お問い合わせ先

畜産振興・防疫対策課 振興グループ

(能登牛銘柄推進協議会事務局)

TEL 076-225-1627

○本県における公務員獣医師職員確保に向けた取り組みについて

獣医師の活動分野は広く、小動物いわゆるペットの診療分野の割合が全体の 42.1%と高く、公務員獣医師や産業動物獣医師の割合が低い状況にあります（図 1）。

石川県では獣医師を家畜保健衛生所、畜産試験場、辰口・富来放牧場、競馬場、県庁に配置しています。それぞれ業務内容は異なりますが、畜産農家の方が安心・安全な畜産物を生産するためには、公務員獣医師はなくてはならない存在です。その獣医師が、現在定員割れの状況が続いており、獣医師不足が深刻となっています。今回は、皆さんにこれまでに県が取り組んでいる獣医師確保の取り組みについてご紹介します。

		令和 6 年 (単位：人)	割合 (%)
活動 獣 医 師	産業動物診療	4,312	10.9
	農林水産分野	3,117	7.9
	公衆衛生分野	5,053	12.7
	その他	463	1.2
	小動物診療	16,717	42.1
	その他の分野	5,757	14.5
	小 計	35,419	89.3
獣医事に従事しない者 (無職含む)		4,245	10.7
合 計		39,664	100

図 1 分野別獣医師の数

(農林水産省 HP より引用)

＜県獣医師職員への誘導＞

一人でも多くの人材を確保するために、次のような取り組みをしています。

① リクルート活動

獣医系大学へ出向き、大学が主催する就職説明会に参加するほか、大学を個別に訪問し積極的な説明を開催しています。全国に獣医系大学は 17 大学ありますが、昨年度は 14 大学の学生へ説明を行いました。

② インターンシップの受け入れ

学生の夏休み期間を利用し、本県の各職場を体験して頂いています。学生からは大変好評で、これを機に採用試験を受験する学生も増えています。

③ 修学資金制度

獣医系大学を受験する高校 3 年生等や獣医学生を対象とし、修学資金を給付しています。また、令和 7 年度からは、他機関の奨学金を利用する獣医学生（6 年生）やその返済を既に実施している獣医師を対象とした奨学金返済支援制度も開始しました。

いずれも将来、本県の獣医師職員として一定期間従事することを条件に返済が免除となる制度となっています。

④ 採用試験

これまで小論文と面接主体であった試験の内容を見直し、本人の人間性を見極めるため、面接試験を重視する試験内容としました。

また受験資格年齢を県の定年退職年齢の 1 年前にまで引き上げほか、今年度からは、採用試験会場を県庁に加え東京にも設置しました。

＜本県出身の獣医師を増やす＞

近年は、県外出身の獣医師も増えていますが、より一層の定着を図るために県内出身者の確保にも努めています。

① 獣医系大学進学セミナー

高校生を対象に、公務員獣医師の入口である獣医系大学から講師を招き、獣医系大

学の紹介と大学の模擬授業行うといった、進学セミナーを実施しています。また、同時に公務員獣医師の職場見学ツアーも行い、職場紹介も行っています。

昨年度より保護者も一緒に参加できる形式としました。

② 職業講話

県の獣医師職員が県内の中学校や高校を訪問し、公務員獣医師の職業や獣医師を目指す方法についてといった講話を実施しています。中・高生に公務員獣医師という職業を知ってもらう良い機会となっています。

③ イベントへの出展

小学生等の低年齢層やその保護者へのアピールを目的に、毎年秋に開催される農林漁業まつりや、公益社団法人 石川県獣医師会主催の動物愛護フェスティバルに参加し、獣医師職員についての魅力や修学資金等の給付制度について紹介しています。

< 獣医師の定着を図る >

若手職員の離職防止も大きな課題となっています。

昨年度から獣医師職員の確保、若手職員の離職防止・スキルアップを図ることを目的とし、麻布大学と「公務員獣医師の育成に係る連携協力協定」を締結しました（図2）。

麻布大学は神奈川県相模原市にあり、最先端の設備を備え、獣医師国家試験の合格率もトップレベルの私立大学です。

この協定では、大学の学生を職場実習に受け入れる等の獣医師確保の取組みをするのはもちろん、県職員が大学と共同研究をしたり、大学講師から直接講義を受けることによって、職員のスキルアップとモチベーション向上、離職防止に繋がることも期待しています。

公務員獣医師は、家畜の健康や食品衛生の管理を通じ、人の食卓の安心・安全を守り、ひいては、社会全体の安心・安全を支える必要不可欠な存在です。

本県では引き続き、獣医師確保対策事業を充実させると共に、獣医師の待遇改善など、獣医師職員の確保と質の向上を図りたいと考えています。



図2 麻布大学との連携協力協定締結式（R8年2月）

お問い合わせ先

畜産振興・防疫対策課 安全対策グループ

TEL 076-225-1627

○豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針が改正

～ワクチン接種地域で「選択的殺処分」が導入されました～

令和8年5月、「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」が改正されました。今回の改正で最も大きな変更点は、本県を含むワクチン接種地域において「選択的殺処分」が導入されたことです。

これまで発生農場では、原則として家畜伝染病予防法第16条による全頭殺処分が行われていました。しかし今後、疑似患畜については家畜伝染病予防法第17条^{※1}に基づく措置が行われることとなり、他農場への伝播リスクとなり得る豚のみを対象とした防疫措置へと転換されます。ただし、農場自らが殺処分する豚を選べるものではありません。殺処分の範囲は、あくまで県が国と協議のうえで決定されます。また、従来の特別手当金は支給されず、手当金（評価額の4/5）のみの交付となります。

一方、残された豚については、監視プログラムが適用され、厳重な監視下に置かれます。生産者の皆様には、改正の趣旨と内容を正しく理解していただくことが重要です。

※1 家畜伝染病予防法第17条：都道府県知事は豚熱のまん延を防止する必要があるときは、家畜の所有者に期限を定めて当該家畜を殺すべき旨を命ずることができる

選択的殺処分の対象

発生農場では、原則として次の豚等が殺処分対象となります。

①ワクチンによる十分な免疫が成立していない豚

- ・患畜の病性等判定日時点でワクチンを接種していない豚
- ・患畜の病性等判定日時点でワクチン初回接種後20日を経過していない豚
- ・発育不良豚

②豚熱感染が疑われる症状を示し、遺伝子検査で陽性となった豚

③家畜防疫員がまん延防止のため殺処分が必要と判断した豚

例えば、同一豚房にワクチン接種日の異なる豚が混在し、接種後20日を経過していない豚が含まれる場合や防疫措置期間中も新たな子豚が生まれる分娩舎やワクチン接種後20日以内の豚が飼養される離乳舎など十分な消毒や空舎化が困難な場合には、家畜防疫員の判断により殺処分対象となることがあります。

しかし、感染が限局しておらず、農場内にウイルスが広範囲に浸潤していると考えられる場合には、原則として繁殖豚を除くすべての豚が殺処分の対象となります。また、防疫措置完了^{※2}までに生まれた子豚も疑似患畜として殺処分対象となります。

このように選択的殺処分では、農場全体を一律に処分するのではなく、「どの豚が感染し、どの豚が感染していない可能性が高いのか」を科学的に評価した上で決定されます。そのため、日頃から豚舎ごとの区分管理など、飼養衛生管理基準を遵守し農場内移動記録を正確に残しておくことが極めて重要になります。

※2 防疫措置完了：殺処分と死体や汚染物品の処理が終了し、1週間間隔の消毒が3回終了した時点

監視プログラム

発生農場では、殺処分から除外された豚についても、豚熱が続発する可能性は否定できません。そのため、一定期間「監視プログラム適用農場」として移動の制限や報告など対応が求められます。

監視プログラムの主な内容は次のとおりです。

①移動制限

対象：生きた豚、精液等、死体、排せつ物等、敷料、飼料及び家畜飼養器具

制限の期間： 患畜確認日から 90 日が経過し、かつ防疫措置完了後 28 日が経過（続発がなかった場合短縮可能）

② 報告徴求

家畜伝染病予防法第 52 条に基づき、以下の項目を家保へ毎日報告します。

- ・発熱豚の有無、食欲不振豚の有無、起立困難豚の有無、死亡頭数など

制限の対象外（と畜場への出荷）

監視プログラム適用農場では、国との協議のうえ、防疫措置完了後には、出荷適期（少なくとも 121 日齢以上）を迎えた豚をと畜場に出荷することができます。ただし、出荷前には、監視プログラムとは別に以下のとおり、出荷に関する対応が必要です。

① 原則 1 ヶ月間の出荷計画を家保に事前提出

② 出荷前の 1 週間程度経時的に臨床検査を確認し、出荷前日に改めて出荷豚全頭の臨床症状を確認し、毎日の報告徴求と合わせて家保に報告

③ 家保より出荷の許可の連絡を受ける。

以上は、改正の内容の一部です。詳しくは、農水省 HP に掲載されています。

[豚熱 \(CSF\) について：農林水産省](#)



おわりに

今回の改正による選択的殺処分は、ワクチン接種地域では伝播リスクに応じた防疫措置が可能となり、経営への影響軽減も期待されています。しかし、農場でのまん延防止対策には、農場ごとの飼養衛生管理基準の遵守、正確な記録管理（ワクチン接種記録、豚の移動記録など）、早期発見・早期通報が不可欠です。豚熱を発生させないことが最大の防疫対策であることに変わりはありません。

生産者一人ひとりが日頃の衛生管理を徹底し、地域全体で豚熱の発生予防に向けた取組を継続していくよう引き続きお願いします。

お問い合わせ先
石川県南部家畜保健衛生所
TEL 076-257-1262

○食肉評価の最近の動向について

1 はじめに

近年、黒毛和種の改良が進み、脂肪交雑（サシ）の入りやすい牛が増えており、令和7年度には石川県産黒毛和種去勢牛の8割以上がA5等級に格付されています（表1）。

A5等級に評価されると枝肉取引価格が高くなるため、生産者の収益も増加し大変喜ばしいですが、一方でそれが当たり前になると、消費者に対して格付の高い和牛の希少性が薄れてきます。こうした状況を背景に、最近ではサシの「量」だけでなく、「細かさ」に着目した新しい指標が注目されています。

そこで今回は、黒毛和種の食肉評価における最近の動向と、能登牛における今後の研究について紹介します。

表1 令和5～7年度石川県産黒毛和種去勢牛の格付成績（資料：日本食肉格付協会）

単位：％

調査頭数	頭数	A-5	A-4	A-3	A-2	A-1	B-5	B-4	B-3	B-2	B-1
R7年度	575	83.3	12.9	2.3	0.2	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0
R6年度	696	78.3	14.1	4.2	0.6	0.0	0.9	0.7	1.0	0.3	0.0
R5年度	685	72.4	20.3	3.6	0.3	0.0	1.2	1.6	0.4	0.1	0.0

2 最近の食肉評価の動向

現在、多くの産地ではブランド牛の差別化を図るため、オレイン酸や一価不飽和脂肪酸（MUFA）といった脂肪の質に着目した評価が行われています。脂肪酸組成に係る遺伝子情報は、ゲノミック育種価の推定に活用されており、食味性を考慮した種雄牛選抜が進められています。

しかし、このような指標は全国的に普及が進み、産地間の差別化が難しくなり、新たな特徴を打ち出す取り組みが求められています。

そこで注目されているのが、「サシの細かさ」です。サシの形状は大きく「粗ザシ」と「小ザシ」に分けられます。粗ザシは胸最長筋（ロース）内に脂肪が太く大きく入り込んだ状態を指し（写真1）、小ザシは細かな脂肪が均一に分布した状態を指します（写真2）。



写真1. 粗ザシのロース



写真2. 小ザシのロース

同じA5等級であっても、粗ザシは筋肉内脂肪含量（IMF）が高くなる傾向にありますが、小ザシは高い脂肪交雑基準（BMS）を維持しながら IMF を抑える手段として期待されています。

また、小ザシの和牛肉は粗ザシよりも消費者の嗜好性が高いことが報告されており、口当たりや食感に優れる可能性が示されています。全国の研究機関では、枝肉のロース断面画像を解析し、「新細かさ指数（NFI）」などの指標を用いてサシの細かさを客観的に評価する研究が進められています。

これからの和牛肉の評価は、脂肪の質に加え、サシの細かさや赤身と脂肪のバランスを総合的に評価することが重要になると考えられます。

実際に、令和4年度に開催された第12回全国和牛能力共進会（鹿児島大会）はMUFA予測値による脂肪の質の評価が審査に組み込まれました。また、令和9年度開催予定の第13回全国和牛能力共進会（北海道大会）に向けた審査基準では、粗脂肪含量相対値（RFV）と呼ばれる小ザシ評価指標も審査の参考項目として位置付けられています。

3 能登牛の肉質評価向上への取り組み

令和7年度の能登牛プレミアム認定割合は、75%に達しており、認定牛の希少性は以前より低下しつつあります。このような状況を踏まえると、従来の脂肪交雑やオレイン酸含量の評価に加え、小ザシといった新たな価値を取り入れたブランド戦略が重要になると考えます。

本試験場においては、和牛肉のオレイン酸含有率を測定する食肉脂質測定装置を活用した小ザシなどの評価手法を検討するとともに、小ザシ形成に関与する血統の探索・活用や飼養管理技術の確立を図り、こうした取り組みを通じて、能登牛ならではの新たな特徴ある肉質づくりにつなげていきたいと考えています。

お問い合わせ先

石川県農林総合研究センター畜産試験場

TEL 0767-28-2284

2027年国際園芸博覧会
横浜・上瀬谷 2027.3.19—9.26
International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan
City of Yokohama, Kanagawa Prefecture, Mar 19-Sep 26 2027
2027チケット 入場チケット販売開始!

GREEN×EXPO 2027

YOKOHAMA JAPAN



GREEN×EXPO協会
(公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会)

The Blooming Field of Planetary Citizens.

地球と。 咲きに行こう。



公式マスコットキャラクター
トウنگトウング

編集後記

今年も暑い夏が過ぎ、実りの秋を迎えました。

令和9年3月19日から「GREEN×EXPO 2027」が横浜で開催されます。このイベントは花や緑、農業、食などを通じて、自然と共にある暮らしを楽しみながら体感できる国際園芸博覧会です。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

また、当協会では今年度も10月31日～11月1日の2日間、石川県産業展示館4号館で開催される石川の農林漁業まつりに、石川県養鶏協会及び石川県馬事畜産振興協議会の2ブースで出店予定です。県産畜産物をデジタルスタンプラリーの景品として無料配布していますので、是非ご来場の程お待ちしております。(T記)

畜産いかわ

編集●公益社団法人 石川県畜産協会

金沢市古府1丁目217番地

TEL.076-287-3635 FAX.076-287-3636

URL <http://ishikawa.lin.gr.jp>

E-mail ishi17@po4.nsk.ne.jp